

波と風



理 念

思いやりのある
やさしい誠実な医療を
提供します

基本方針

1. わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

- 2～8P 新年挨拶
- 9P 診療科紹介(救急科)
- 10～11P 診療科紹介(呼吸器外科)
- 12P 職場紹介(看護部長室)
- 13P 職場紹介(外来)
- 14P 職場紹介(企画課経理)
- 15P 職場紹介(栄養管理室)
- 16P 認定看護師紹介
- 17P 職員表彰
- 17～18P 論文表彰
- 19P 60回生 戴帽式を終えて
- 20～21P 呉市総合防災訓練に参加しました
- 22P うちの部署の接遇キラリさん
- 23P 連携医療機関紹介
- 24P 我が家のスターたち
- 寄付について、編集後記

※紙面上の一部写真は撮影のためマスクを外しております。
撮影終了次第、マスクを着用しております。



新年にあたって

呉医療センター・中国がんセンター 院長 下瀬 省二

今年の干支(えと)は卯(うさぎ)です。干支はもともと、古代中国の思想・陰陽五行説から発生したもので、十干(じっかん)と十二支(じゅうにし)の組み合わせです。

十干は、陰陽五行説に基づいて「木・火・土・金・水」の五行と、「陰・陽」に分けたものです(表 1)。陽の語尾の「え」は兄、陰の語尾の「と」は弟が語源となっています。

十二支は、古代中国で、天球を約 12 年で 1 周する木星の運行を目安として、12 の方角に分けて名前を付けたものと言われています。十二支にも陰・陽があり、「子・寅・辰・午・申・戌」が陽、「丑・卯・巳・未・酉・亥」は陰で、交互に割り当てられています(表 2)。

表 1. 十干

	陽	陰
木(き)	甲(きのえ)	乙(きのと)
火(ひ)	丙(ひのえ)	丁(ひのと)
土(つち)	戊(つちのえ)	己(つちのと)
金(かね)	庚(かのえ)	辛(かのと)
水(みず)	壬(みずのえ)	癸(みずのと)

表 2. 十二支

陽	陰
子(ね)	丑(うし)
寅(とら)	卯(う)
辰(たつ)	巳(み)
午(うま)	未(ひつじ)
申(さる)	酉(とり)
戌(いぬ)	亥(い)

干支(えと)は、十干と十二子の陽と陽、陰と陰が組み合わせられた 60 を周期とする数詞で、一巡すると還暦となります。2022 年は「壬(みずのえ)」と「寅(とら)」の組み合わせで「壬寅(みずのえとら)」でしたが、今年は、「癸(みずのと)」と「卯(う)」の組み合わせで「癸卯(みずのとう)」です。

十干や十二支は、それぞれ独自の意味を持っています。「癸」は十干の第 10 位で、物事の終わりと始まりを意味し、「揆(はかる)」という文字の一部であることから「種子」が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味があるとされます。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味や、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとされます。この 2 つの組み合わせである癸卯(みずのとう)は、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しています。

「スクレロスチンとは? 若い人の骨粗しょう症の原因に」という NHK 健康チャンネルの特集では、「骨からの“メッセージ物質”が記憶力・免疫力・生殖力などを若く保つ!」ということが語られています。骨は常に作り替えられていて、大人では 3 ~ 5 年で全身の骨が入れ替わります。新しく強い骨を維持することで、疲労骨折などを防ぐためです。この作り替えを行っているのが、骨の中にいる細胞、骨を壊す「破骨細胞」と骨を作る「骨芽細胞」です。この二種類の細胞の作り替えのバランスが崩れて起きるのが「骨粗しょう症」です。

「骨細胞」は、「メッセージ物質」といわれる特別な物質によって「骨を作ろう!」「骨を壊そう!」などの指示を出します。メッセージ物質の一つであるスクレロスチンは、「骨を作るのをやめよう!」というメッセージを出します。骨細胞は骨の量が増えすぎないように、スクレロスチンによって、骨を作る「骨芽細胞」の数を減らします。

骨細胞には「骨にかかる衝撃を感知する」という働きもあり、衝撃があるかないかによって、新しい骨を作るペースを決めています。骨に「衝撃」がかからない生活を続け

ていると、骨細胞が「スクレロスチン」をたくさん出して、骨芽細胞の数を減らし、骨の建設を休憩させてしまいます。運動をしないで一日の大半を座って生活している現代人は、スクレロスチンが大発生し、知らないうちに骨粗しょう症が進行している可能性があります。

「骨芽細胞」が出すメッセージ物質「オステオカルシン」は骨の中から血管を通じて全身に届けられ、「記憶力」「筋力」さらには「生殖力」まで若く保つ力があることがわかっています。オステオカルシンがないマウスでは、位置を記憶する能力が衰えたり、精子の数が半分近くまで減少してしまうことが実験で確認されています。骨を作る細胞である骨芽細胞が、若さを生み出す驚きのパワーを持っていることが、最新の研究で明らかになっています。

また、骨芽細胞が出すメッセージ物質「オステオポンチン」が減少すると、骨髄内で生まれる免疫細胞の量が低下することがわかっています。免疫細胞の量が減れば、免疫力が下がり、肺炎やがんといった病を引き起こすリスクが高くなる可能性があります。

骨粗しょう症予備群の男性 38 人(20 代 ~ 50 代)に週 3 回 30 分、ジャンプ運動と、筋トレを続けて、骨に刺激を与え続けると、一年後には 38 人中 36 人の骨量が増え、さらにスクレロスチンの値が減少していました。骨量は 25 歳くらいを過ぎると、加齢のために減少していきませんが、意識的に運動で骨に刺激を与えると、スクレロスチンの値が下がり、骨量を増やすことができます。骨芽細胞が活性化すれば、若さを生み出すメッセージ物質のパワーで、体全体の機能を若く健康に保つ事も期待できます。

骨に刺激がなければ、骨が弱くなるだけでなく、記憶力や筋力が低下し、若さを失うことになっていきます。また、免疫力が低下することで肺炎やがんといった病気にかかりやすくなる可能性もあります。普段から運動を心がけているつもりですが、今年は、体全体の機能を若く健康に保つため、意識的に運動で骨に刺激を与えようと思っています。



ミズーリ大学ヒントン博士が指導するジャンプ運動。1 日 30 分週 3 回の衝撃運動で骨が蘇る! (NHK 健康チャンネルより)



新年のご挨拶

副院長 高野 弘嗣

新年あけましておめでとうございます。

今年は行動制限のない年末年始となり、帰省や海外、国内旅行をする家族などで、各地の混雑は昨年と比べ物にならないくらいでした。学会や研究会なども、Webと現地開催とのハイブリッドで行われることが多くなっていますが、行動制限の解除に伴い、一部は現地開催のみという学会も行われるようになってきています。しかしながら、我々医療従事者が、全く行動制限なしに動くことは、まだ困難なようです。

2023 年になり、新たな 1 年を迎えるわけですが、昨年を振り返ってみると、2022 年の今年の漢字が「戦」と決まりました。理由としては、やはりロシアによるウクライナ侵攻がまず挙げられるのではないのでしょうか。ロシアの一方的な宣戦布告については、もちろん許されることはありませんが、傷つくのは両国ともに戦地へ向く戦闘員とそこで暮らしている住民が被害者となることも事実です。この戦争に伴い世界的に、食糧事情、燃料需給事情が悪化し、食料品をはじめ、ガソリン価格、電気料金、ガス料金など生活に必要なものの価格が上昇しています。当院に於いても、燃料費等の増加に伴い、経常費用が増加しています。職員の皆様による診療により、医業収益の増加による経常収益の増加でカバーされている状況です。

そして、3 年目に突入したコロナとの戦いも挙げられます。世の中はすでにコロナ患者の増加を認めながらも、行動制限はなく、旅行や食事などは以前に近い状況となっています。しかしながら、医療従事者については未だに行動制限がかかっている状況です。そのなかで、コロナ患者、発熱患者の診療にあたっては、対応して頂いているすべての職員の皆様に感謝いたします。特にコロナ患者診療を行っていただいている呼吸器内科、救急科の先生方、また 10A 病棟、3A 病棟のスタッフの皆様に感謝

申し上げます。発熱患者については、直接担当していただいている初期研修医の皆様、昨年よりご協力いただいている発熱外来に従事していただいている各科診療科の先生方にもお礼を申し上げます。また、院内で発生したクラスターに対しても、入院予約患者の調整や普段と違う疾患患者を診ることになって、負担をかけた職員の皆様にお礼申し上げます。まだしばらくは、この状態が続くことが予想されますが、これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

ここまでは、悪い意味での「戦」について書かせていただきましたが、いい意味での戦いもありました。2022 年で個人的に最も印象的なことは、サッカーのワールドカップでした。サッカーに詳しいわけではありませんが、予選リーグで勝利したドイツ戦とスペイン戦では、両試合とも、前半は攻め込まれる場面が多く、0-1 で折り返しました。後半になり、攻めに転じ、最終的にどちらも 2-1 で勝利しました。前半戦を耐えて我慢して最少失点でしのぎ、後半に盛り返しての逆転には感動しました。コロナとの戦いに重ねてみると、既に 3 年間で長く、いつ終わるかわからない前半戦を戦い続けている状況といえるのではないかと思います。今年こそは、医療従事者も含めて、明るい後半戦になることを祈念するばかりです。

ここ 3 年間、今年こそはコロナが収束し、元の状態に戻ることを願っておりましたが、今後はコロナとの共存の中での、生活様式や医療の在り方を考える時代としての、後半戦を目指すことになりそうです。病院として、出来ることは、可能な限りのことは、行わせていただきます。

皆さんの力をお借りしながら、しっかり前を向いて歩んでいきたいと思います。



昨年を振り返って

副院長 繁田 正信

新年明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、清々しい気持ちで 1 年を歩み始める。毎年繰り返されていることではありますが、日本人としては、除夜の鐘で旧年中の悪事を浄化させて良い年を迎える、そういった思いが根底にあると思います。

さて、思い起こしてみれば、昨年は様々なことが起こりました。ロシアのウクライナ侵攻、北朝鮮の度重なるミサイル発射、中国のミサイルが日本領海に発射、米中派遣争い、物価の高騰、などなど、暗いニュースばかりでした。中でも、昨年は新型コロナウイルス感染症により、1 年中、本当に気が抜けない日が続きました。今まで普通に行われていた、人と会い、会話し、食事をして人間関係を構築することが、まるで悪の様に制限されて来ました。会いたい人に会うのも少しはばかられ、また会食に至っては何となく後ろめたく、つい避けてしまう。子供社会では、友達と遊ぶことさえ難しい時もありました。今も正直、終息したとは到底言えない状況が続いておりますが、ワクチンの普及、各種治療薬の開発による治療方法の幅が少しずつ増えていることも相まって、新型コロナウイルス感染症が、以前のように重篤化しなくなり、少しずつ、人々の心に変化が生じて来ていると思います。諸外国のように、急に、全て元のように、マスクなしで生活し、食事、お酒も制限なし、とは言えないものの、徐々に徐々に、薄皮を剥ぐように、元の暮らしが戻りつつあるのを感じます。近い将来、ただの風邪、と言えるようになる日が待ち遠しいですね。

また、職員の皆様、昨年 1 年間、大変お疲れ様でした。新型コロナウイルス感染症が日本に流行し始めて以来、コロナ病棟に入院された患者数、発症した職員数ともに昨年が群を抜いて最多となりました。発熱外来に受診される患者さんも桁違いに多くなり、防護服を着て問診、検体採取、

採血、検査等々、多忙かつリスクを負った職務を淡々と行っておられました。また、患者さんの治療に当たる職員側も、職場で、あるいは家庭内で新型コロナウイルス感染症に罹患、もしくは濃厚接触者となり、出勤停止、もはや職員の出勤停止の報が聞かれない日はない程でした。そのため、その日に働ける職員の数も職場によっては足りない状況が発生しているにもかかわらず、残された人員で補って職務を全うして来られました。これもひとえに呉市民の健康、医療を何とか我々が支えるんだ、という職員の皆さん意気込みのお陰と思っております。ストレスの捌け口となる、友人とのおしゃべりや会食もままならない中、本当によく頑張ってくれたと感謝しております。また、忘れてはならないのは、職員の皆さんを支えている家族の方々の理解と協力無くして呉市民の医療を持ち堪えることは出来ませんでした。今後もしばらくは気の抜けない状況が続くと思われますが、出口はもうすぐそこまで来ています。共にもうひと踏ん張りして、来年の今頃には新型コロナウイルス感染症以外の、明るい話題で盛り上がりたいものです。

今、広島呉道路の拡張工事が行われています。以前、寺田 稔衆議院議員が話されていた内容では、広島呉道路を片側 2 車線の道路にする、東広島呉道路と連結させる、とのことでした。西日本豪雨災害の時、一時、陸の孤島と化した呉市の状況を鑑み、輸送手段確保のため、確固たる輸送路を作成していただけるとのことです。道路の完成はまだ先ですが、人口減少が加速している呉市において、インフラ整備が整えば、逆に人口増のきっかけになるものと期待しています。

皆様のご多幸を祈願しつつ、新年のご挨拶の言葉と代えさせていただきます。



新年のご挨拶
統括診療部長 大庭 信二

新年明けましておめでとうございます。Covid-19 感染症流行も今年で 4 年目を迎えます。感染症流行にもめげず、呉医療センターにおきましては、各診療科・各部・各種委員会の皆様の不屈のご尽力のお陰で、全ての診療が滞ることなくこれまで以上の業績をあげられていることを私は大変誇りに思います。

そして、今年は兎年です。私自身今年の年賀の挨拶には、“ぴょんぴょん跳ねる兎”になぞって飛翔の年を記載いたしました。1918 年から流行したスペイン風邪も 4 年目には収束しています。私たちの町に以前のような社会活動が再び戻ってくることを今年は願うばかりです。

一方、私達のこころと身体はコロナ禍で気が付かないうちに徐々にむしばまれているかもしれません。皆さん外出する機会が減り、体を動かすことが少なくなってい



新年のご挨拶
臨床研究部長 田代 裕尊

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

世の中は昨年から with コロナに向かいつつありますが、今年も昨年の第 8 波を見るとコロナ感染症は収束する気配はなさそうです。この風と波が掲載される 1 月中旬頃にはどこまで増加しているのか心配されます。さてコロナ禍の影響で一昨年までは学会に現地参加できませんでした。ここ 2 年間学会研究会は web 開催でしたので興味ある主題は何回も視聴できるメリットがありますが学会特有の緊張感はありません。発表に際しても座長とのやり取りで終わり充実した高揚感といったものはあまりありませんでした。しかしながら昨年は愛媛と熊本での学会に現地参加できました。愛媛では専門の肝胆膵外科関連の学会でしたので数名の旧知の友人と会い、お互いの近況などゆっくり話すことができ濃密な時間を過ごすことができました。熊本では第 76 回国立病院総合医学会に参加しポスターセッションでの若手の熱気あふれるディスカッションを聞き学会を実感できました。また学会参加ならではの観光もあり会場に近接した復興途中の熊本城に足を運び重厚で壮大な

でしょう。高齢の方の場合は、フレイル(虚弱現象)が進み、ロコモティブ症候群(関節や筋肉の衰え)が増えていと報告されていますが、この現象は何も高齢者の方だけに当てはまるわけではなく、若い人達にも、運動不足によるメタボリック症候群が襲ってきています。また、長時間マスクを着けたまま生活をしていると、会話が少なくなることにより、唾液分泌が抑えられて虫歯や歯周病のリスクも高まると言われています。歯と口腔内の健康は免疫力増進に必須とされているものです。さらに、常にマスク着用することで人と人との触れ合いが少なくなり、普段とは違い、一人の時間が長くなることによりストレスや不安を感じるようになった方も多いでしょう。一番の問題は自分自身にこういった変化の自覚がないことです。今年、私達はお互いに支えあって心と身体の負の循環を解消していかなくてははいけません。

今年も職員の皆様と一緒に病院を盛り上げようと努力したいと思います。どうか宜しくお願いいたします。

造りを見学でき久しぶりに学会参加を体感できました。やはり学会研究会は現地参加が王道で、可能なら学会開催後の教育集会や主題の web 配信が良いのではと考えます。今年 10 月には当院が主催する第 77 回国立病院総合医学会が広島で開催されますので皆様にはご参加の程お願い申し上げます。

さて、臨床研究部活動では昨年度も全体的には例年同様の実績を残すことができました。国立病院機構では毎年臨床研究活動実績として各センター・病院ごとに点数化されています。この活動実績ポイントにより臨床研究部(治験管理室を含め)の人員配置や助成金の配分が決定されますので病院運営や研究に大きく影響します。今年からこのポイント配分に変更がありました。外部資金の獲得を重視するようになり治験や競争的資金のウエイトが上昇し、一方論文のウエイトが下がったため当院の活動実績ポイントが低下するのではと危惧されました。しかしながら職員皆様の活発な学術活動により昨年に増して英語論文での獲得ポイントが増し学術活動分野では 8 位で、全体でも何とか昨年同様の全国 12 位でした。各研究室の研究結果が着実に進展していると肌で感じます。今年もこれらの研究が進展できるように環境整備を図り努力していきたいと思いますので皆様にはご指導のほどよろしくお願いいたします。また治験に関しましても新薬を患者さんに届けることに貢献しますので皆様にはご協力をお願いいたします。



新年のご挨拶
看護部長 神田 弘子

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、ロシア、ウクライナ戦争が終息することがなく私たちの生活も脅かされ、また、新型コロナウイルスにおいても、世界的に流行し続け、日本への物流の停滞が生活だけでなく、医療現場にも大きく影響を受けました。このような中、今年は、どのような年になるのでしょうか。癸・卯年は、「これまでの努力が花開き、実り始めること」と言われています。従って、この数年間流行し続けた新型コロナウイルス感染症から放たれ、大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する明るい未来がやってくることを願っています。

さて、看護部にとって今年は、どのように飛躍していくのでしょうか。昨年までは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ストレスが大きい反面、職員たちは、



新年のご挨拶
事務部長 徳臣 雅彦

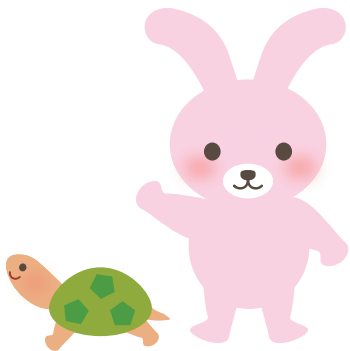
新年明けましておめでとうございます。

昨年は漢字 1 文字で世相を表す「今年の漢字」に「戦」が選ばれました。これは当然、ロシアのウクライナ侵攻を反映したものと思われませんが、これ以外にも記録的な円高や物価高による生活面での「戦」や日本代表が強豪国を撃破したサッカーのワールドカップ、冬季大会最多の 18 個のメダルを獲得した北京五輪での熱戦なども影響しているようです。

ウクライナへの侵攻は長期化し今後の見通しもわからず、更なる戦闘激化の予想もされているところですが、これによりエネルギー価格の高騰、食糧危機など日本のみならず世界経済に多くの影響を与えています。とりわけエネルギー価格の高騰は当院のみならず、診療報酬に費用の転嫁が出来ない病院にとっては相当な負担となっており、収支の悪化を招いています。また、これらの世界情勢に対応するため、国内においても政府・与党は、専守防衛の考えに基づき、敵地反撃能力を有し、防衛力の抜本的強化をする」と表明しました。財源確保で様々な増税を検討している模

患者さんのため、同僚のため協力し合い医療・看護に努めました。この協力する力を確信した私は、今年は、飛躍するだけでなく、着実に確実に看護の質を向上していきたいと思いました。専門職として看護師が行うことを再認識し、私たちが行う看護を丁寧に、確実に出来るよう研鑽して行こうと思っています。

本年ども、どうぞよろしくお願い申し上げます。



様で更なる費用の増加が懸念されます。

新型コロナウイルス感染症については収束する気配はなく、感染の波が定期的に訪れており、その度に感染者は増加しています。オミクロン株以降、新型コロナによる重症化率・致死率は低下している様子で、季節インフルエンザと比較されるようになってきましたが、効果的な治療薬がなく、新型コロナの特殊事情として、後遺症の問題も解決しておらず、これまでの季節性インフルエンザと並べて議論するのは適切でないかもしれません。

ようやく新型コロナを 2 類相当から 5 類への見直しを検討することが表明されていますが、これによって医療機関の負担は減少するのでしょうか。どの医療機関でも受け入れが可能かどうかと言えば、構造的に感染対策が出来ないところもあり、また、5 類相当となることで、医療機関への補助金はなくなり、コロナ病棟は姿をなくしていくかもしれません。今までコロナ患者を受け入れていない医療機関が直ちにすべての受け入れが可能かという点と難しいと思われます。当院では現在の体制を当面は維持する必要があるのではと考えます。

今年は 1 日でも早く、どこにでも自由に移動ができ、人と人がお酒でも飲みながらわいわいと気兼ねなく交流できるように戻れることを願っています。



新年のご挨拶
薬剤部長 藤田 秀樹

新年、あけましておめでとうございます。

令和4年の流行語大賞は、「村様様」となりましたが、薬剤部の業務は1人のヒーローの出現により、業績が大幅に向上することはありません。個々の業績の積み上げによってこそ、薬剤部としての業績向上につながると考えます。

しかしながら、業績向上の一方で、働き方改革も実施していかなければいけません。業績の向上と働き方改革は相反していると感じますが、実施していくためには、薬剤部全体の業務を検証し、個々の業務を公平に評価し、透明化を図りつつ、手順の簡略化をスタッフ全員で共有し検討することが必要となります。

また、薬剤部門だけに捉われずに他職種・他部門とも十分に協議する必要があり、各種のチームによる協働に



新年のご挨拶
副学校長 橋本 一枝

新年おめでとうございます。令和5年がスタートいたしました。

看護学校は、と申しますと令和4年4月にスタートした1年は、それぞれの学年の学生が看護師になるという目標に向けて、学習を継続している年度途中であります。

今年度の対面での講義や臨地で実習させていただける機会は一時期に比べ増えてはきました。しかし依然、急遽臨地実習を学内実習に変更しなければならない状況は続いております。職員は履修計画の修正が必要な場合も、力を併せて丁寧に学生に向き合っております。それを受けて、学生の皆さんも真摯に学習に取り組んでおります。

さて、私事ですが4月に当校に着任し、9か月(1年の3/4)が経過いたしました。時間が経過する感覚の速さを痛感しております。その感覚として、フランスの哲学者

加えて、個々の能力・専門性の向上も重要となります。そして、タスクシフトを取り入れ、「薬剤師は薬剤師でなければできない業務を、薬剤師でなくてもできる業務は薬剤助手へシフトする」という考えのもと、薬剤助手の積極的な活用を行い業務の見直しを行っていきます。さらに、働きがいのある楽しい職場づくりに取り組み、スタッフの確保につながるよう取り組んでいきます。

最後に、早いもので呉医療センターに赴任して1年が経過しようとしています。薬剤部の業務にご理解、ご協力いただきました皆様に感謝するとともに、今年もご協力の程よろしく申し上げます。

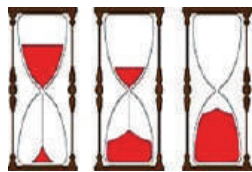


ポール・ジャネが発案した「ジャネーの法則」というものがあるようです。その人が生きてきた年数によって1年の相対的な長さがどんどん小さくなること(例:10歳の時、1年間は人生の10分の1を占める。50年以上生きたら、1年間は人生の50分の1でしかない。)によって、時間を早く感じるということ、と記されていました。

今年度の残りは、第5次カリキュラム改正とその運用、加えて3校(呉・岩国・浜田)合同カリキュラムの本格的な導入とその実施・評価、次年度から学生定員数の変更(1学年40名)に向けた受験生の確保と、目前の状況もめまぐるしい変化が予測されます。

新年からの時間の流れに上手く乗り、当校が掲げている“生命尊重と人間愛を基盤に、実践力のある看護者を育成する”という教育理念のもと、皆様にご協力をいただきながら、看護基礎教育を実践していきたいと考えております。

引き続き、本年もどうぞよろしく願いいたします。



診療科紹介

救急科

皆さんは、救急科の医者の仕事はどのようなものかと思われたことはありますか? テレビドラマのイメージが強いでしょうか。街中の開業医さんや大きな病院の中には様々な標榜診療科があります。循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、脳神経外科、精神科、消化器外科、糖尿病内科、リウマチ膠原病科など、ヒトの体の機能や疾患毎の専門性により名づけられている診療科、耳鼻咽喉科、眼科、心臓血管外科、腎臓内科、整形外科、皮膚科など、臓器や器官の専門性に基づいて名づけられている診療科、産科、婦人科、小児科などの性別や年齢による特徴を専門性として名づけられている診療科、麻酔科、放射線科、形成外科、緩和ケア科など診療行為や診療目的による専門性に基づいて名づけられている診療科などです。救急科以外の診療科は、その名称でどのようなことをする診療科であるかについて、多くの人が共通の認識をもっています。しかし、救急科は文字だけでみると「急いで救う診療科」となり、今一つ何をするのかよくわかりません。医学部のまだ臨床実習を行っていない2年生の学生に「救急科の先生はいつもどのような仕事をしているか」と質問をすると、「救急車で来る患者さんを診る」「夜などの時間外に患者さんを診る」「心肺停止の患者さんを診る」「患者さんの初期治療を行う」「どのような患者さんでも診る」「全身管理を行う」「ある程度診断をつけて専門の先生に引き継ぐ」など様々な答えが返ってきます。



写真1 救急科スタッフ

救急科って何をする診療科?

救命救急センター部長(救急科科長)
岩崎 泰昌



実際のところ救急科の役割は、病院ごとに大きく異なっており、救急外来だけを救急科が担当している病院、集中治療に特化してICUの患者のみを救急科が診療している病院などさまざまです。

当院の救急科の役割は、他のすべての診療科と深い協力関係を持ちながら、内科系、外科系を問わず様々な傷病の重症急性期の診療を担当しています。救急車で来られた重症の患者さんだけでなく、院内に入院中に状態が悪化した患者さんも含まれます。また、重症の新型コロナウイルス感染患者も救急科にて担当しています。当院は現在、常勤の救急科医師は私一人の状態、他に初期研修医2-3名、診療看護師2名で診療を行っています。呉医療センターは毎年3000台強の救急車の受け入れを行っており、本来は、救急車で搬送された患者さんの初療も行う必要がありますが、常勤医の人数が少ないので、広島大学病院からの応援医師や当院の各診療科から交代で担当医師を決めて診療を行っています。

人手不足の現状ですが、これからも、呉医療センターの一員として、地域の皆様に安全と安心を提供できる病院になれるように頑張っていきます。



写真2 救急車で患者受け入れ



写真3 屋上ヘリポートでのドクターヘリによる患者受け入れ

呼吸器外科

呼吸器外科医より 1 年に 1 回の
「肺がん検診」のすすめ
～コロナ禍で「手術ができない(=進行した)」肺がんが増えています!～

呼吸器外科科長 三村 剛史



<「肺がん検診」のすすめ>

呼吸器外科が担当する手術で最も多いのは肺がんに対する手術です。肺がんは、ある程度のステージに達するまで無症状のまま経過することが多く、手術可能な患者さんの多くは症状がありません。よって早期発見のためには「肺がん検診」はとても重要です。科学的根拠に基づいた検診として、現在胸部 X 線検査が 40 歳以上の方に毎年の受診が推奨されています。呉市でも「呉市健診予約センター」へのお電話 (050-3625-3019 平日 9:00-17:30)、あるいは「呉市健診予約システム」でのインターネット予約などで「肺がん検診」を受けることができます(呉市 HP もご参照ください)。

肺がん検診

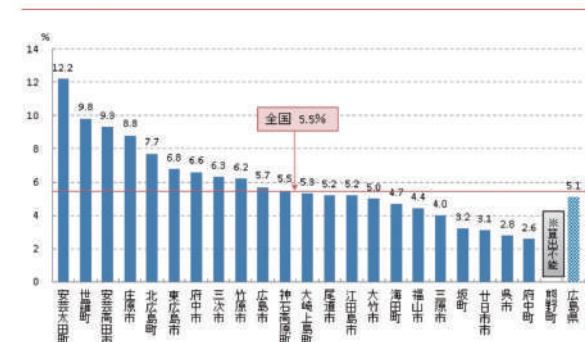


図 2020 年度 肺がん検診受診率(市町村別) 広島がんネット HP より

コロナ禍の検診控え等により、手術可能な患者さんの紹介が激減しています。手術できたとしても、手術中に予想外のリンパ節転移が判明するなどして、ステージが進行してしまっている患者さんがこの 1-2 年増えているのを実感しています。また症状が出現してから受診では、ステージが進行し手術が不可能な状態になっていることも多いように思います。

2020 年度呉市の「肺がん検診」受診率は広島県 14 市中最底の 2.8% です(図)。肺がんは早期発見が完治への第一歩ですので、この広報をご覧になった方々はもちろん、ご家族、ご親戚の方々などに、ぜひ「肺がん検診」の受診を呼びかけていただければと思います。

<呼吸器外科の紹介>

呼吸器外科では心臓・大血管領域を除く胸部領域の手術を担当しています。特に原発性肺がんを中心に、転移性肺腫瘍(肺がん)、気胸、胸膜中皮腫、縦隔腫瘍など多種多様な手術を行っています。ほとんどの手術に最新の 4K3D 内視鏡を使用した胸腔鏡下手術(VATS バッツ)を取り入れ、体への負担の少ない手術(低侵襲手術)を目指しています。現在、三村剛史、鍵本篤志、石田聖幸の 3 名(写真 1)により年間 200 件近くの呼吸器外科手術を行っています。

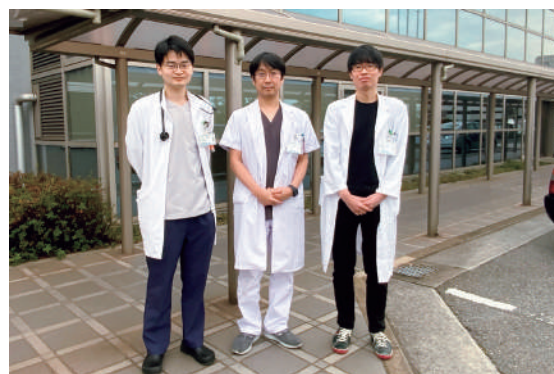


写真 1 左から石田聖幸、三村剛史、鍵本篤志

<原発性肺がんとは>

原発性肺がんは肺の細胞そのものから発生した悪性腫瘍です(前述の「肺がん検診」のすすめを含め、当科紹介文の肺がんは基本的には原発性肺がんを指

しています)。日本では現在年間約 12 万人に肺がんが発症すると言われており、

喫煙が肺がん発症の最大の

原因です。タバコにはタールなど発癌物質が多数含まれており、肺や気管支が繰り返し発癌物質にさらされることにより正常細胞に遺伝子変異が起こります。この遺伝子変異の積み重ねにより癌化と言われています(写真 2)。なお他の臓器で発生した腫瘍(がん)が、血液やリンパの流れなどに乗って肺に転移してきたものを転移性肺腫瘍(転移性肺がん)と呼びます。これは発生した元の臓器の腫瘍(がん)の性質を持ち併せたままであり、原発性肺がんとは異なります。

肺がんは、がんの広がりに応じて 0 期から 4 期まで進行度(ステージ)が定められ、ステージによって治療方針を決めていきます。基本的にはステージ 0 期あるいは 1 期(肺の中に限局する)から 2 期(肺内・肺門のリンパ節転移など)では手術を第一に考えますが、その他肺がんのタイプ(組織型)や患者さんの全身状態(肺活量や心臓の機能など)を総合的に考慮し、手術が患者さんにとって最良の治療となる場合に手術を提案させていただきます。

<肺がんに対する手術>

肺は胸の左右の大きな空間の中(胸腔)に存在する臓器であり、手術では切除される側の肺を特殊な麻酔でしばめた状態で行います。「肺がん診療ガイドライン」における手術可能な方に対する標準手術は、肺がんの存在する肺葉(肺は右 3 つ、左 2 つの肺葉に分かれています)の切除と周囲のリンパ節の切除です。さらにステージや臓器の機能などを考慮して、切除の範囲を狭めたり(縮小手術)、肋骨など周囲の臓器を同時に切除したりします。特に最近では種々



写真 2 摘出した直後の肺です。矢印の部位が肺がんの病巣です。肺全体はタバコの影響で黒くなっています。

の理由から小型肺がんの発見が増加しており、さらには高齢化も進んでいることから、肺機能温存を考慮した縮小手術(肺部分切除や肺区域切除)を積極的に採用しています。

当科の特徴として、以前より体への負担を少なくした胸腔鏡下手術を取り入れてきましたが、2021 年秋からは高解像度でかつ立体映像下に手術が可能な 4K3D 内視鏡を導入し、従来に増して安全で精度の高い手術が可能となりました(写真 3)。側胸部に 1 ~ 3cm 程度の穴を 3-4 箇所程度作成し、そこから棒状の長い鉗子や自動縫合器などを挿入しながら患部の切除を行います。傷が小さくなることによる見た目や痛みの軽減だけでなく、精度の高い手術が術後早期の回復や合併症軽減にも繋がり、患者さんの体に負担の少ない手術を提供できると考えています。



写真 3 4K3D 内視鏡を使用した手術風景です。

呼吸器外科では、新しい手術の方法や合併症を少なくする取り組みなどを、学会や論文発表を通して全国の専門家に情報発信してまいりました。引き続き患者さんファーストで体に負担の少ない最善の手術を提供していく所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願いします。



看護部長室

副看護部長 服部 有希



外来

外来看護師長 小阪 美鶴



看護部長室・看護部事務室は、より良い医療・看護を実践するための看護職の役割の中でも、特に管理・調整的役割を担う部署です。患者さんが安全に療養できる環境を担保することや、看護職員が働きやすい職場環境となるように看護師長やスタッフと共に考え支援し合える場所でありたいと考えています。

スタッフ紹介

メッセージ業務や管理日誌の整理、会議資料の印刷、更衣室の点検等、縁の下の力持ち！

休暇簿や様々な申請書の点検、更衣室、宿舎に関すること等、重要な役割を担う頼りになる存在！！



看護部長
看護職員 600 名をとりまとめる
トップマネージャー！

副看護部長 (3 名)
★教育担当 ★労務担当
★業務担当

1日の流れ

- 8:30 出勤
- 8:40 管理看護師長より申し送り
- 8:50 医療安全管理係長・教育担当看護師長とミーティング
- 9:00 看護部長・副看護部長でミーティング
看護部が最大限の力を発揮できるように看護部の方針・方向性を検討します
- 9:30 部署ラウンド
看護師長から、患者さんやスタッフのこと等、報告・相談を受ける
他部門からの連絡・調整 入院患者さんの部屋調整、委員会の相談など
来客や業者の訪問 申請書類の確認、会議・委員会出席
- 17:15 会議録やレポート、看護研究等の点検、指導等・・・あっという間に1日が終了です💧



外来は、16 窓口 34 診療科あり毎日 1000 人近い患者さんが来院されています。その患者さんの多くが採血後の診察となっている為、できるだけ採血待ち時間を短縮するために 2019 年度より、様々な対策を講じてきました。(図 1)

	1日平均外来受診患者数	年間採血患者数	1日平均採血患者数
2019年度	1007.9人	70,375人	288人
2020年度	921.1人	67,791人	275人
2021年度	957.1人	67,839人	275人

図 1 1日平均外来受診患者数および採血者数

現在、8 時 30 分から採血を開始していますが、特に外来受診患者さんが多い火曜日と木曜日は、1 時間近くお待ちいただいている現状がありました。

採血が遅くなると、結果が出るまでに時間を要するため、各診療科での待ち時間がさらに遅くなってしまいます。そこで、下記の 3 点について取り組みました。

1 点目の取り組みは、採血台を 9 台から 11 台へ増台し、採血までの待ち時間短縮を図りました。(写真 1)



写真 1 採血台

2 つ目は、待合のスペースを広く確保し、患者さんの動線を考え、移動もスムーズに行えるように安全に配慮しました。(写真 2)



写真 2 待合スペース

3 つ目は、採血番号を呼ばれた患者さんが、迷うことなくすぐに採血台に来られるように案内係が中待合や採血台へご案内するようにしました。

しかし、このように採血台や環境を整えても採血をする職員が少ないと患者さんをお待たせしてしまうことには変わりありません。そのため採血する職員は、採血台分の人数で対応できるように 2019 年度より業務改善を行い、採血室担当の看護師以外に各診療科の看護師も採血を行うようにしました。

外来看護師全員が、採血を行う応援体制を整えた結果、2021 年度の採血までの待ち時間は、患者さんが一番多い時間帯で、最長 60 分から 30 分の短縮が見られました。さらに 2022 年 9 月より検査科と協同し、採血後の検体を検査室へ提出するタイミングの検討を重ね 15 分毎から 10 分毎へ変更することで、検査結果が出るまでの時間に 8 分～10 分の短縮が見られました。

今後も少しでも外来診療までの待ち時間が短くなりますよう努力してまいりますので、予約時間に合わせて来院いただきますようご理解とご協力をお願いいたします。



企画課経理

企画課長 上藤 大征



栄養管理室

栄養管理室長 兼 任美



事務部は企画課と管理課があり、企画課の中には経営企画室があります。企画課の業務は大きく分けて経理と医事に分かれており、今回は、外来診療棟3階にある企画課経理部門を紹介させていただきます。

企画課(経理部門)は経理、財務管理、契約の3つの係で構成されています。

まず、経理係の主な業務は、病院の『債務』(病院で購入した物品や様々な契約に基づく支払い)を管理することです。取引業者への支払い以外にも、給与・旅費などすべての支払い手続きを行います。取引する額は非常に大きく、支払い件数も年間で11,000件を大きく上回っています。しかし、現金を取り扱うことはほとんどなく、ネットバンキングを使ったインターネット上での決済となっており、ボタン一つで何億円という支払いを行っています。私が一般職員の時代は給与や旅費は現金での支給でしたので、億の現金を手錠付きジェラルミンケースに入れて銀行から持ち帰っていました。すごい緊張感でしたが、今の時代もただ、ネット上で数字が動くのではなく、緊張感をもって業務を行っていくよう指導しています。また、科学研究費、臨床研究費などの研究費全般の管理及び執行も行っています。

次に、財務管理係は病院の収入となる医療費等の収納など、いわゆる『債権』の管理をしています。こちらの取り扱い件数も非常に多くて年間で11,000件を上回っています。また、医療費の未払者に対しては、企画課医事部門と連携して窓口・電話督促、督促状の発送や法的措置の申し立てなど、その回収に努めています。医療費を支払われない方にも理由があります。そこをなんとか支払っていただく、それを管理する業務の大変さは昔とあまり変わってな

いように思います。(もちろんシステムは昔と比べようありませんが)病院の日々のキャッシュを管理するのも財務管理系の業務です。他にも国、地方自治体から交付される補助金の申請や管理も行っています。

契約係は病院で使用する全ての医薬品、医療機器、消耗品等の調達や清掃、保守点検などの業務委託、また、建物・機器などの修繕業務などの契約を担当しています。こちらの取り扱い件数は年間30,000件に届こうかというところですが。契約事務には厳密なルールがあり、そのルールの中で必要な物を必要な時まで調達できるよう業務しています。また、契約手続きだけでなく、価格交渉などによる経費の削減にも日々取り組んでいます。

企画課経理部門の職員は、現在14名です。経理、財務管理、契約の3つの係とも「お金」と密接に関係する業務を行っており、高い倫理観と業務に対する正しい知識が必要とされるため、日々コンプライアンスを遵守し、常に向上心を持って業務に取り組んでいます。



栄養管理室では、「すべての患者さんの栄養管理を」を理念に、入院患者さんへの病院食の提供と栄養管理、退院後の食生活指導、外来患者さんの栄養相談を行っています。

地下1階にある栄養管理室では、衛生管理に十分配慮し、安全・安心をモットーに、並菜食や軟菜食などの一般食と、糖尿病食や心臓病食などの特別食、合わせて毎食500食を調理し、温冷配膳車を使用して、温かいものは温かい状態で、冷たいものは冷たい状態で提供しています。また、並菜食の方を対象に、毎週水・木・金曜日の夕食時には、「選択食」を実施し、化学療法による食欲低下の患者さんを対象に、「特C食」という味をしっかりと付けた料理や、さっぱりした料理も提供しています。赤ちゃんの誕生のお祝いと健やかな成長を願い、当院の調理師が心を込めて手作りした「出産祝い膳」や、季節に合わせた行事食など、入院患者さんに喜んでいただけるお食事の提供に努めています。



特C食



出産祝い膳

栄養相談は、1階にある栄養相談室で実施しており、InBody770にて体組成を測定し、根拠に基づいた指導を行っています。また、資料やフードモデルを用いて、わかりやすい説明を第一に考えています。管理栄養士が、日常の食生活において改善が必要なところを患者さんと一緒に見つけ出し、出来ることから一つずつ実行していけるようサポートしています。

また、医師・看護師・薬剤師・検査技師と連携して糖尿病教室も実施しています。

病棟業務では、8名の管理栄養士が、病棟担当制とし、入院患者さんの食事の要望や疑問に敏速に対応できるよう心がけています。また、手術を受けられる患者さんへは、必要に応じて術前より栄養管理を行っています。

NST(栄養サポートチーム)では、多職種のスタッフが協働して患者さんの栄養状態を把握し、適切な栄養管理を提案しています。他にも、摂食嚥下チーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなど、多職種で構成されたチームにも所属し、管理栄養士としての能力を発揮しています。

お食事で困ったことがあれば、是非、ご相談ください。



クリスマスデザート



認定看護師紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師 福田 聖子

私は皮膚・排泄ケア認定看護師として現在、消化器内科外来で勤務しています。炎症性腸疾患外来では患者さんから排泄に関する相談をいただき、食事指導や服薬指導などを行っています。また内科的治療を経て、外科的手術を受けた患者さんの相談をうけることもあります。ストーマ(人工肛門・人工膀胱以下ストーマと称す)外来を医師とともに担当し、ストーマを造設された(図1)患者さんの生活をサポートする役割を担っています。当院の患者さんだけではなく呉地区にある施設へ入所中の方を他院からご紹介いただき、ストーマ管理に関するご相談にも対応しています。

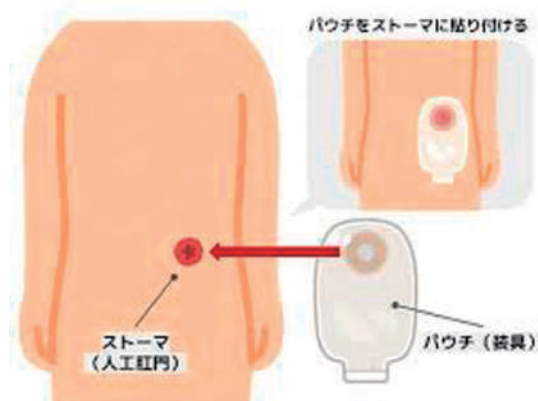


図1 ストーマおよびパウチ(装具)

患者さんは、慣れない排泄管理に入院中からずっと不安を抱えておられるため、そのお気持ちを十分に理解し医師、病棟看護師と外来看護師が連携し、患者さんに寄り添えるよう心がけています。

当院は毎週木曜日の午後にストーマ外来を行っています。患者さんと日常生活についてお話し、困っていることやお悩みを解決できるよう医師やソーシャルワーカー、地域の施設看護師、その他担当者と情報交換をしています。患者さんのお悩みはそれぞれ異なり、排泄物の漏れによるストーマ周囲のかぶれ、ストーマ管理に関する新しい情報(装具類紹介など)を知りたい、旅行に行きたい、お風呂には

どのように入ればよいかなど様々です。ひとつひとつを解決につなげ、少しでも入院前の生活に近づけるよう努めています。

当院には4名の皮膚・排泄ケア認定看護師(写真1)がおり、入院中の患者さんの情報を外来につなげ、外来では継続した看護を展開できるよう心がけています。

また、当院ではストーマを保有されたオストメイトの方々が集い、情報交換を行う「オストメイトサロン」を3か月に1回開催しています。オストメイトサロンでは、手術後間もないオストメイトの方が、経験の長いオストメイトにストーマ管理で工夫していることや、困った場合の対処方法などを知る情報交換の場となっています。今年度も4回開催し、多くのオストメイトの方にご来院いただいています。

私は様々な場面で皮膚・排泄ケア認定看護師として、入院中から退院後(外来)まで継続的に、患者さんと長いおつきあいをする中で、それぞれのご事情を伺いながら、できるだけ希望にそえるような情報提供やケアを心がけていきたいと考えています。



写真1 皮膚・排泄ケア認定看護師

職員表彰

表彰テーマ	表彰者
災害を未然に防止し、又は災害に際しその危険を克服して職務を遂行した者について	新開感染管理認定看護師、他ICTメンバー
災害を未然に防止し、又は災害に際しその危険を克服して職務を遂行した者について	福岡臨床検査技師長
新型コロナウイルスワクチン職域接種について	大庭統括診療部長、問診医、接種医、薬剤部、看護部、職員係
院内新型コロナウイルス感染症患者発生時の対応について	看護師長会メンバー
薬剤部のチーム医療に対する貢献について	薬剤部
リハビリテーション総合計画評価料と退院時リハビリテーション指導料の算定数増加について	前迫理学療法主任



論文表彰

<最優秀論文賞>

脳神経内科 医師 倉重 毅志

論文名: TDP-43 Accumulation Within Intramuscular Nerve Bundles of Patients With Amyotrophic Lateral Sclerosis.

雑誌名: JAMA Neurology IF(2021): 29.907

論文名: Gastrointestinal cancer occurs as extramuscular manifestation in FSHD1 patients.

雑誌名: Journal of Human Genetics IF(2021): 3.755

受賞理由: 多忙な臨床活動とともに、上記2報の英文論文を発表した業績は高く評価される。

また、IFが29.907となる論文を発表した点も高く評価される。

過去受賞歴: 2019年 優秀論文賞、2020年 優秀論文賞、2021年 最優秀論文賞

<優秀論文賞>

消化器内科 医長 桑井 寿雄

論文名: Efficacy and safety comparison of scissor-type knives with needle-type knives for colorectal endoscopic submucosal dissection: A post-hoc propensity score matched analysis (with videos).

雑誌名: Gastrointestinal Endoscopy IF(2021): 10.396

論文名: SB Knife Jr: characteristics and tips on how to use.

雑誌名: Mini-invasive Surgery IF(2021): なし

論文名: Challenges in colonic stenting: Giving up is not an option.

雑誌名: Digestive Endoscopy IF(2021): 6.337

受賞理由：多忙な臨床活動とともに、上記 3 報の英文論文を発表した業績は高く評価される。また、IF が 10.396 となる論文を発表した点も高く評価される。

過去受賞歴：2017 年 最優秀論文賞、2018 年 優秀論文賞、2019 年 最優秀論文賞、2021 年 優秀論文賞

消化器内科 医師 田丸 弓弦

論文名：Efficacy of traction device for endoscopic submucosal dissection using a scissor-type knife: Randomized controlled trial.

雑誌名：American Journal of Gastroenterology IF(2021): 12.045

受賞理由：多忙な臨床活動とともに、上記 1 報の英文論文を発表した業績は高く評価される。また、IF が 12.045 となる論文を発表した点も高く評価される。

過去受賞歴：2019 年 医局論文賞

<論文賞>

消化器内科 医長 山口 厚

論文名：A Case of Biliary Tract Infection in Heredity Hemorrhagic Telangiectasia. Gastro Hep Advances.

雑誌名：Gastro Hep Advances IF(2021)：なし

論文名：Effectiveness of Abdominal Ultrasonography for Improving the Prognosis of Pancreatic Cancer during Medical Checkup: A Single Center Retrospective Analysis.

雑誌名：Diagnostics IF(2021): 3.992

受賞理由：多忙な臨床活動とともに、上記の英文論文 2 報を発表した業績は高く評価される。

過去受賞歴：2021 年 論文賞

放射線診断科 医師 梶原 賢司

論文名：Computed Tomography Fluoroscopy-guided Biopsy of Lung Nodules: Comparison of the Step-wise and Real-time Techniques.

雑誌名：Hiroshima Journal of Medical Sciences IF(2021)：なし

論文名：Efficacy and safety of CT-guided cryoablation after lipiodol marking and embolization for RCC.

雑誌名：Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies IF(2021)：2.179

受賞理由：多忙な臨床活動とともに、上記の英文論文 2 報を発表した業績は高く評価される。

過去受賞歴：なし

ME 管理室 臨床工学技士長 多賀谷 正志

論文名：Activity of anticoagulant proteins on the polymer-coated and heparin-coated membranes in an extracorporeal circulation circuit.

雑誌名：Perfusion IF(2021)：1.581

受賞理由：多忙な臨床活動とともに、上記の英文論文 1 報を発表した業績は高く評価される。

過去受賞歴：2014 年 最優秀論文賞、2016 年 論文賞、2018 年 優秀論文賞、2020 年 論文賞

薬剤部 薬剤師 前田 龍人

論文名：Molecular epidemiological and pharmaceutical studies of methicillin-resistant Staphylococcus aureus isolated at hospitals in Kure City, Japan.

雑誌名：Access Microbiology IF(2021)：なし

受賞理由：多忙な臨床活動とともに、上記の英文論文 1 報を発表した業績は高く評価される。

過去受賞歴：なし

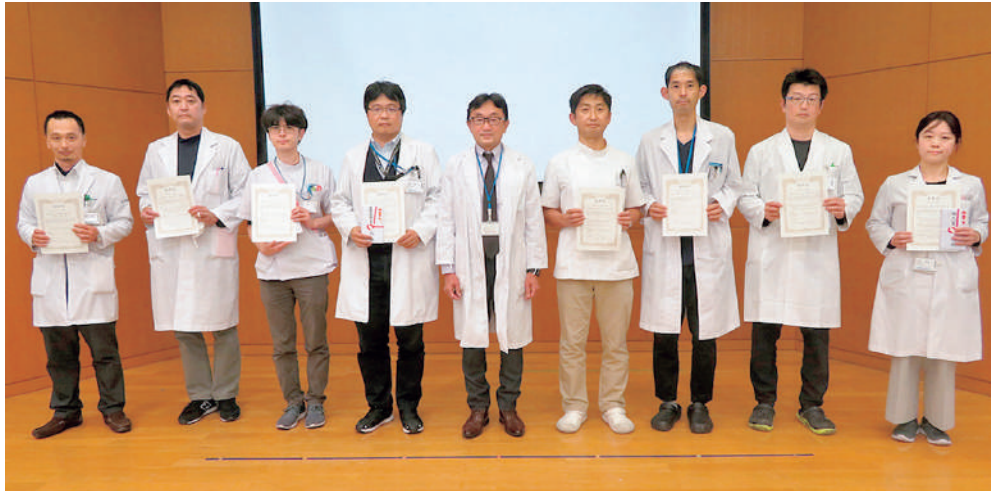
臨床研究部 研究員 岡田 麻美

論文名：Tetraspanin heterogeneity of small extracellular vesicles in human biofluids and brain tissue.

雑誌名：Biochemical and Biophysical Research Communications IF(2021): 3.322

受賞理由：研究員として上記 1 報の英文論文を発表した業績は高く評価される。

過去受賞歴：2011 年 最優秀論文賞



60 回生 戴帽式を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 60 回生 大原 瑚々奈

令和 4 年 10 月 13 日、60 回生 61 名の戴帽式が挙行されました。戴帽式は、入学してからずっと心待ちにしていた行事でした。男子学生は胸にワッペンを、女子学生はナースキャップを頂き、ナイチンゲール像から看護の灯を受け継ぎました。学校長先生から、「戴帽式というのは、単にナースキャップを頂くということではなく、ナイチンゲールの看護理念を継承するということです。」と祝辞をいただきました。私はその言葉を聞いて、とても身の引き締まる気持ちがしました。

私たちは戴帽式に向けて全員で「誓いの詞」を作成しました。誓いの詞を考えることで、自分がどのような看護師になって社会で活躍したいのか考えることができました。皆で考えた誓いの詞をこれか

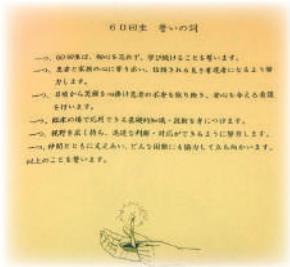
らも心に留めて学習していこうと思います。

そして、先輩からの祝辞では、実習での経験を教えてください、私たちもこれから沢山の経験を積んで先輩のように成長していきたいと思いました。そのためにも、日々努力していくことを大切にしたいです。

今年の戴帽式はコロナ禍により規模は縮小されたものの、体育館で保護者にも列席してもらえました。いつも支えてくれている家族に白衣姿を見てもらうことができ、とても嬉しかったです。

今後も戴帽式で感じた感激を胸に抱いて、60 回生皆で協力しながら前進していきたいです。

最後に戴帽式を行うにあたって関わって下さった皆様方、本当にありがとうございました。





呉市総合防災訓練に参加しました

財務管理係長 永田 佳也

去る令和4年10月21日(金)、広多賀谷多目的広場にて呉市総合防災訓練が開催されました。呉医療センターからは岩崎救命救急センター部長、竹田診療看護師、増永副看護師長、半田副臨床工学技士長、岡本薬剤師、私永田のDMA T隊員6名で参加しました。

この呉市総合防災訓練は毎年行われており、例年では消防局・警察はもちろん、医療機関、自衛隊、海上保安庁、水道局、インフラサービス企業、ボランティアの学生・市民の方々などが参加し、大規模に行われてきました。コロナ禍でこの2年間開催されていませんでしたが、今年度は規模を縮小して開催されました。

訓練での私たち医療機関の役目は、救急隊から搬送された傷病者をトリアージ(選別)し、選別されたエリアでトリートメント(治療)し、医療機関へトランスポート(搬送)することです(災害医療ではT T Tと言われています。)。この一連の流れについて呉市内医療機関と消防局内のローカルルールで、傷病

者の管理をトリアージタグと搬送先指示書の紙運用で従前より行ってきました。まずはこの流れを理解してもらうため、10月21日の本番1か月前に呉市医師会館に参加者が参集し、事前訓練が実施されました。初めて参加する方、3年ぶりの開催となることも重なって戸惑う部分もありましたが、ゆっくりシナリオを流しながら手順を確認していきま

した。そして、訓練本番。天気は快晴。呉市長をはじめ市議会議員などご来賓の方々(院長の姿も)を迎え訓練が始まりました。第一部では消防局と自衛隊による、被災現場からの傷病者救出訓練が行われました。日頃から鍛え抜かれた技術を遺憾なく発揮していました。第二部が医療機関と消防局による傷病者選別・治療・搬送訓練です。開始前に医療機関災害対策本部長の岩崎先生から注意事項が示達され、各医療機関の参加者が配置につきました。呉医療センターは呉共済病院と共に災害対策本部担当として、活動を行いました。

患者搬送が始まりました(以前でしたら実際にボランティアの学生や市民の方々が傷病者役をしてくださいましたが、コロナ感染対策と規模縮小のため今回は人形で代用。)。事前訓練の効果もあって、各ブースは手際よく傷病者の選別・治療・搬送を行っていました。災害対策本部では各ブースからのトリアージタグ1枚目を確認し、同じ本部内で活動する消防局と情報を共有し、救急車の空き状況、各医療機関への搬送状況、傷病者の搬送優先順位・搬送先、傷病者の人数把握、搬送先指示書への書き込みと伝達、等々を行いました。本部内も岩崎先生指示のもと、呉医療センターと呉共済病院が協力し円滑に業務を遂行できたと思います。それでも災害現場では思い通りにいかないこともあります。搬送依頼をしているが救急隊がやって来ない、という案件がありました。これについてはブースと本部で若

干意見が食い違ったことで発生したのですが、ブースから本部に確認の連絡をしてくれたので、すぐに取りカバリーし消防局に搬送を依頼することができました。その他で大きな混乱は無く、傷病者全員を搬送・帰宅させることができました。

訓練終了後、呉市医師会館で振り返りが行われ、各ブースから報告、反省点や改善点について議論されました。私自身、呉市総合防災訓練に参加するのは10年ぶりでしたが、当時から紙運用での管理方法ではあったものの、今回ほど訓練が円滑ではなかったと記憶しています。現在の運用はかなり確立されたものになっていると実感しています。来年以降も参加することになりますが、さらに練度を上げ呉市内の災害対応に一助できればと思います。



うちの部署の 接遇キラリさん



看護部
8A 病棟
看護師
川岡 駿太さん

入職して9ヶ月が経ちました。8A病棟には、自分の思いや言葉をうまく伝えられない患者さんや、治療の過程で発声ができず言葉を伝えるのが困難な患者さんが入院されています。そのため患者さんの伝えたいことを時間帯や表情、その時の状態からくみ取れるよう努めています。これからも他職種と連携しながら患者さんの必要な看護が提供できるよう日々の関わりを大切にしていきたいです。

酒見 8A 病棟看護師長より

川岡くんは患者さんだけでなく、一緒に働く仲間に対しても常に誠実に対応されています。特に人と話をするときには必ず相手の目をしっかり見ているところが印象的です。相手にしっかりと向き合い、そのまっすぐな眼差しは、相手にとって話をしっかり聞いてくれるという安心感を与えてくれます。これからの成長がとても楽しみです。



栄養管理室
管理栄養士
国正 昇馬さん

栄養士の仕事は他職種の皆さんと協力しながら、食事対応などの栄養管理を通して、患者さんの治療に寄与することだと考えています。食事を摂ることは基本的にはどんな方でも毎日続くことで、食事自体が生きていくことの励みになる部分もあると思います。患者さん一人一人の状態や環境にあった分かりやすい栄養管理が行えるよう、感謝の気持ちを忘れず努めていきます。

兼 栄養管理室長より

国正さんは、毎朝、元気な声で挨拶してくれる礼儀正しい入職二年目の管理栄養士です。常に患者さんを第一に考え、やさしい話し方、丁寧な対応をしています。たまに冗談を言って先輩や同僚を笑わせてくれる、おちゃめな一面もあり、栄養管理室のアイドル的な存在です。



看護部
9B 病棟
看護師
金子 柚那さん

9B病棟は移植治療や抗がん剤治療のために入退院を繰り返す患者さんが多くいらっしゃいます。入院生活で生じる様々な心情に寄り添い、些細な変化に気付けるよう日々、コミュニケーションを大切にしています。患者さんやご家族に安心感を与えられるように、これからも笑顔を保ちながら丁寧な関わりをしていきたいです。

畑 9B 病棟看護師長より

金子さんは、患者さんに対して常に笑顔で誠実な対応をしています。また患者さんだけでなく、看護師をはじめ他職種との関わりの中でも、笑顔を保ちながら接する姿に、周りの雰囲気も自然と穏やかになっています。移植治療や抗がん剤治療と身体的にも精神的にもつらい患者さんの大きな支えになっています。



管理課
職員係
大林 令奈さん

職員係では、定期健康診断や勤務時間管理を通して職員の健康管理を行っています。適正な勤務時間管理を行うことで職員の心身の健康だけでなく働きやすい環境づくりを目指しています。これからも皆さんが健康的に勤務できるよう、業務に励んでいきたいと思っています。

桑本 管理課長より

新採用の事務職員の方は皆元気ですが、大林さんは特に元気がみなぎっているなと感じています。元気な挨拶をされるとこちらまで元気をもらった気持ちになります。何事も前向きに取り組まれており、これからの病院を引っ張っていける人材として応援しています。

連携医療機関 紹介

大矢整形外科病院

院長 金子 真也

大矢整形外科病院院長の金子真也です。私は平成8年に岡山大学医学部を卒業、以後各地の拠点病院勤務を経て、呉共済病院に5年間在籍したのち、平成30年大矢整形外科病院院長に就任しました。

当院は明治45年5月に創業以来100年以上にわたって呉地域医療の向上と発展に取り組んでまいりました。病院のモットーは、患者様に優しく寄り添いながら治療を行うことです。来てよかった、また来てみようと思っていただけるような病院をスタッフ一同で目指しております。当院では現在、一般整形外科的診療のほか、超音波診断装置を用いた整形外科診断・治療、骨密度測定器を使用した骨粗しょう症治療、リウマチの治療、仙骨裂孔ブロック・ハイドロリリースといった患者様の痛みを軽くする治療を積極的に行っております。また、腱鞘炎の手術をはじめとした日帰り手術および、橈骨遠位端骨折などの入院適応になるような手術も実施しております。

加えて、経験豊富な理学療法士と作業療法士が在籍しており、骨折の術後ないし保存的治療、あるいはアキレス腱断裂等のスポーツ疾患、腰部脊柱管狭窄症等の慢性的な病気を対象にした充実したリハ

ビリ治療を提供しております。

また、整形外科以外にも内科医師が常勤し、入院・外来両方での内科医療および在宅診療も行っております。

令和4年11月からは地域包括ケア病棟算定を開始し、退院して自宅へ戻ることを目標とする回復期病院となりましたが、在宅復帰が難しい患者様にも対応いたしますので、入院ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。今年からは短時間型通所リハビリテーションサービスも開始し、介護認定をお持ちの方で運動療法を希望される方もお越しください。また、救急告示病院として救急車も積極的に受け入れております。

呉医療センター・中国がんセンターには通院・入院患者が急変した際や高度な手術が必要になった際に患者様を適宜受け入れていただき、大変感謝しております。

地域の中核病院・医療機関と連携して呉市民のための医療に邁進していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



我が家の スターたち

木原満結ちゃん

保護者コメント

1歳0か月からすずらん園に通い始めた娘。当初は歩けず、言葉もなかなか発せずでした。先生方やたくさんのお友達と触れ合う中で、今ではすっかり保育園での生活を楽しんでおり、その日の出来事をお家で嬉しそうに話してくれます。

イヤイヤ期真っ最中でも保育園には好んで登園してくれるので、娘にとって安心できる場であり、充実した時間を過ごせているのだと思います。満結ちゃん、これからも先生やお友達とたくさん思い出を作ってね。



担任保育士のコメント

「はい、どうぞ!」「おいしいね!」とお友だちとのやりとりがどんどんできるようになったまゆちゃん。

転んで涙が出たお友だちの元にも「大丈夫?」と駆け寄ってあげる優しい女の子です。

くつや上着を自分で脱げるようになり、うれしそうな笑顔に癒されています。

これからも「まゆちゃんね〜」とニコニコ笑顔でたくさんお話聞かせてね。

すずらん園で楽しい思い出いっぱい作ろうね。

青木ゆきののちゃん

保護者コメント

令和3年10月に入園しました。1歳になったばかりで、私の手を握って不安な様子でした。今は先生に抱っこを求めて行くゆきのです。人見知りなところがありますが、園では先生や友達と手をつないで散歩に出かけたり、ままごとをして過ごしているようです。

毎日楽しく元気に通えているのも、先生皆様方のおかげと本当に感謝しています。

これからもよろしくお願いします。



担任保育士のコメント

はずかしがり屋なゆきののちゃん。最近はお話がすごく上手になり、日々おどろかされています。ついつい「もう1回!言って」と求めてしまうけど恥ずかしくなっちゃって、もじもじ...

ふとした時に満面の笑みでお話をしてくれるので、今日はどんな言葉が聞けるかな?と毎日が楽しみです。これからもいっぱいお話をして楽しく過ごそうね。

呉医療センターへご寄付をいただきました。

令和4年10月~12月の間に、寄付をいただきました。

◆ご寄付 医療法人せいざん青山病院理事長 青山喬さま(国立病院機構呉医療センター発展の一助となるため)

みなさまからの気持ちのこもったご支援をありがとうございました。

編集後記

全部署の勤務時間管理システム導入が1月に完了しました。業務可否かなどの議論とは別に最近よく考えることがあります。どんな職業であっても、上席者・尊敬される)先輩と呼ばれる一定の経験年数に達するまでに相応の経験を積み、実務上の知識とスキルをバランス良く身につける必要もあります。また、経験無き知識はしばしば実情で差し支えることも「経験によって」知っています。行き過ぎた働き方改革は、経験値を積みたい方が経験する場を無くしてしまう事にならないかと思う今日この頃です。

(広報委員会)